

豊川市版身近な自然環境調査結果

1 調査目的

豊川市内の自然環境の現況を調査し、将来への影響を予測することで適切な保全措置を検討する等、豊川市の将来環境像「自然にやさしいまち」の実現を図ることを目的とする。

2 調査内容

豊川市内の地形・地質及び自然現象、植物、動物（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類、水生生物）の現況を調査するとともに、環境学習に活用するマップを作成した。

現況調査にあたっては、天然記念物、種の保存法に定められた国内希少野生動植物種、「環境省レッドデータブック・レッドリスト」及び「愛知県レッドデータブック」の掲載種を、注目すべき種として確認した。

3 調査方法

(1) 既存資料調査

市史、町史等の既存資料を収集・整理し、豊川市における生物の生育・生息状況を把握するとともに、現地調査候補地の抽出を行った。

(2) 有識者へのヒアリング

現地調査地を選定するにあたり、地域の自然環境に精通する学識者にヒアリングを実施した。

(3) 現地調査

①調査項目

- ア 地形・地質及び自然現象
- イ 植物
- ウ 動物（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類、水生生物）

②調査場所

既存資料調査や有識者ヒアリング等をもとに、生物の生育・生息環境、市内全体のバランス等の観点から下記15箇所を調査地点とした。

No.	市町村名	現地調査地点	選 定 理 由 等
1	旧豊川市 (5ヶ所)	千両町	典型的な里山環境を有し、動植物相が豊か。
2		野口池	市内では最も水草等が多い。
3		佐奈川	典型的な都市河川であり、市民に親しまれている。
4		豊川放水路	人工河川であり、土堤部は良好な草地環境が維持されている。
5		財賀寺	市を代表する樹林地で自然環境的・文化的に重要な場所である。
6	旧一宮町 (4ヶ所)	本宮山	分布の極限植物、スギ巨木林など県内でも有数な植物の宝庫。
7		旗頭山	蛇紋岩植生の注目すべき種や草地性植物が多い。
8		いこいの広場	豊川左岸に位置する河川敷で、開放的な川面空間が広がる。
9		わくぐり神社	スタジイ林で構成される社寺林で空中湿度が高くシダ類が豊か。

10	旧音羽町 (3ヶ所)	宮路山	変化に富んだ地形、北斜面のため、植物の宝庫である。
11		萩	典型的な里山環境を有し、動植物相が豊か。
12		長沢	水田耕作跡地に復元した湿地で、多数の湿性植物が生育。
13	旧御津町 (2ヶ所)	御津山	常緑広葉樹林帯がみられる。
14		御馬海岸	塩湿地や砂浜の海浜性植物や塩性植物が生育する。
15	旧小坂井町 (1ヶ所)	旧とんぼ公園	縄文時代の貝塚があり、海浜性植物が生育。トンボ類が多い。湧水がある。

③調査期間

平成23年7月11日～平成23年12月16日

④調査方法

ア 地形・地質及び自然現象

調査地内を任意に踏査し、地形・地質及び自然現象の分布状況を確認し、写真撮影を行った。

イ 植物

調査地内を任意に踏査し、シダ植物以上の維管束植物の生育種を確認し、写真撮影を行った。

ウ 動物（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類、水生生物）

調査地内を任意に踏査し、生息個体やフィールドサイン、鳴き声、卵等を対象に、任意観察、捕獲・採集等を行うとともに写真撮影を行い、確認種を記録した。

また、ニホンザル等の有害鳥獣被害が認められる地域では、地元住民に聞き取りを行い生息状況、被害状況等の確認を行った。

4 調査結果

(1) 地形・地質及び自然現象

確認された特異な地形・地質として、本宮山の馬の背岩、旗頭山の蛇紋岩、牛の滝、大木の鍮水が確認された。特に、旗頭山は、超塩基性の蛇紋岩で構成されているため、注目すべき植物種を含む草原が成立する要因となっている。

(2) 植物

現地調査の結果、144科867種の植物が確認された。最も多くの地点で確認された種は、アカメガシワ、ヘクソカズラ、セイタカアワダチソウ（14地点）であった。また、最も多くの種が確認された地点は本宮山（439種）であり、次いで萩（380種）、長沢（360種）、千両町（358種）であった。多様な種が確認された地点の多くは、水田と樹林地で構成される里山環境であった。注目すべき種は、ムラサキセンブリ、スズサイコ、ハマエノコロ等の11種が確認された。

(3) 動物

①哺乳類

現地調査の結果、6目9科12種の哺乳類が確認された。最も多くの地点で確認された種はニホンジカ（6地点）であり、最も多く種が確認された地点は千両町及び本宮山の2地点（6種）であった。注目すべき種はアズマモグラ、ムササビ、テン、アナグマの4種が確認された。

②鳥類

現地調査の結果、14目33科78種の鳥類が確認された。最も多くの地点で確認された種はヒヨドリ（13地点）であり、最も多く種が確認された地点は旧とんぼ公園周辺（35種）であった。多様な種が確認された地点の多くは、水田、ため池、河川等の水辺環境であった。注目すべき種はサンコウチョウ、コサメビタキ、オオタカ等の14種が確認された。

③両生類

現地調査の結果、2目5科12種の両生類が確認された。最も多くの地点で確認された種はトノサマガエル及びヌマガエル（8地点）であり、最も多く種が確認された地点は本宮山（8種）であった。注目すべき種はイモリ、ヤマアカガエル、ダルマガエル、ツチガエル及びモリアオガエルの5種が確認された。

④爬虫類

現地調査の結果、2目6科12種の爬虫類が確認された。最も多くの地点で確認された種はカナヘビ（9地点）であり、最も多く種が確認された地点は野口池、萩、本宮山の4地点で、いずれも6種が確認された。注目すべき種はイシガメ及びスッポンの2種が確認された。

⑤魚類

現地調査の結果、7目13科32種の魚類が確認された。最も多くの地点で確認された種はカワムツ（6地点）であり、最も多く種が確認された地点は豊川放水路（17種）であった。注目すべき種はウナギ、ホトケドジョウ、メダカ、ドンコ及びカジカの5種が確認された。

⑥昆虫類

現地調査の結果、14目111科354種の昆虫類が確認された。最も多くの地点で確認された種はアブラゼミ及びナミアゲハ（11地点）であり、最も多く種が確認された地点は本宮山（160種）であった。注目すべき種はオオゴキブリ、クチキコオロギ、ヒメタイコウチの3種が確認された。

⑦水生生物

現地調査の結果、3目7科8種の水生生物が確認された。最も多くの地点で確認された種はアメリカザリガニ及びカワニナ（2地点）であり、最も多く種が確認された地点は旧とんぼ公園周辺（3種）であった。注目すべき種は確認されなかった。

⑧有害鳥獣被害状況等

ヒアリング調査を行った結果、萩、赤坂台、長沢において、ニホンザル、ニホンジカ、ニホンイノシシ、ハクビシンによる家庭菜園や農地への被害が確認された。

〔現地調査で確認された生物と温暖化の関連性〕

今回の現地調査において、本来は南方系のチョウ類であるヤクシマルリシジミ、クロコノマチョウ、ムラサキツバメ、ツマグロヒョウモン及びナガサキアゲハが確認された。このことから、本市の生物相も温暖化による影響を受けている可能性が推察された。

5 保全対策の検討

特定外来生物は増加が確認される前に駆除する必要がある。また、山林においては、近年、ナラ枯れが全国的な問題となっているため留意する必要がある。

No.	市町村名	現地調査地点	保 全 対 策
1	旧豊川市 (5ヶ所)	千両町	現状の多様な環境を里山環境として一体的に存続させる必要がある。
2		野口池	水質の悪化に留意しつつ、後背地の林、野口池及び水田を含む水辺環境を一体的に存続させる必要がある。
3		佐奈川	水質の悪化に留意しつつ、現状の瀬、淵。水辺植生等の水辺空間を一体的に存続させる必要がある。
4		豊川放水路	陸域の内、土堤部では定期的な除草を継続すること、水域では水際のヨシ帯や塩湿地性植物群落を保全し、河道や河床が単一化された状態にならないように留意することが重要である。
5		財賀寺	現在の良好な樹林環境を存続させる必要がある。
6	旧一宮町 (4ヶ所)	本宮山	県立自然公園等に指定されており、人為的な環境の変化は想定されない。
7		旗頭山	注目すべき植物が生育する草地環境として、必要に応じて草刈や火入れを行い、非森林的環境を存続させる必要がある。
8		いこいの広場	河川敷の樹林地や河道内のヤナギ林は、河川に特徴的な動植物の生息環境となるため、極力、存続させる必要がある。
9		わくぐり神社	現在の社寺林を存続させる必要がある。
10	旧音羽町 (3ヶ所)	宮路山	国定公園等に指定されており、人為的な環境の変化は想定されない。
11		萩	現状の良好な樹林地、湿地及び水田を里山環境として一体的に存続させる必要がある。
12		長沢	現状の良好な樹林地、湿地及び水田を里山環境として一体的に存続させる必要がある。
13	旧御津町 (2ヶ所)	御津山	国定公園等に指定されており、人為的な環境の変化は想定されない。
14		御馬海岸	海砂の流出やゴミ等の漂着物への対応に留意し、生物が生息可能な砂浜を存続させる必要がある。
15	旧小坂井町 (1ヶ所)	旧とんぼ公園	湧水をはじめ、周辺水路・水田等の水域が分断されることなく一体的に存続させる必要がある。

6 自然環境マップ

子どもを対象とした環境学習に使用することを目的に、調査結果等を基にした自然環境マップを500部作成した。(別添参照)